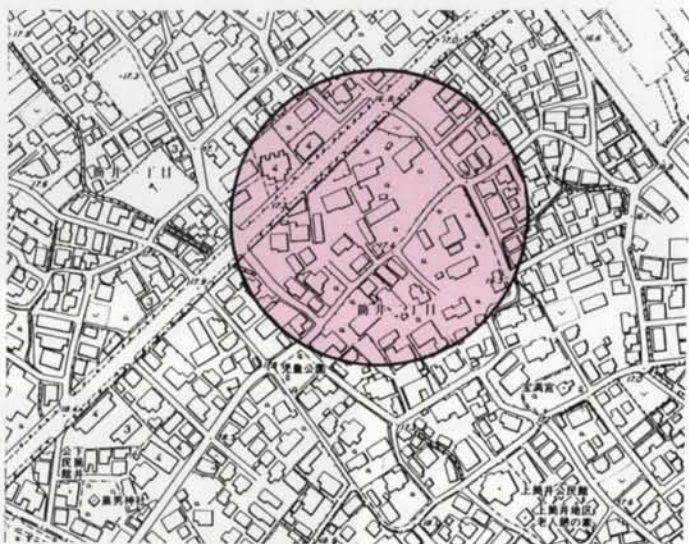


むら した  
村 下 遺 跡

大野城市教育委員会

村下遺跡は、今の筒井1丁目と筒井2丁目、通称「筒井北通り」と呼ばれている道路をはさむようにして広がっている遺跡です。これまで遺跡があることは知られていなかったもので、マンションの建設工事がきっかけになって発見されました。何度かの発掘調査によって、主に弥生時代の遺跡であることがわかっています。住宅が建ち込んでいるので、遺跡の正確な範囲はほとんどつかめていません。



村下遺跡の場所（円内）

右下の写真は、丸い形の竪穴住居跡です。土地がかなり削られていたため壁があまり残っておらず、壁に沿って掘られていた幅約40cmの溝の形から、径約4m×4.6mの楕円形の住居跡であったことが判断されました。ほぼ中央に、丸い掘り込みがあります。ここからは炭が見つかり、炉であったと考え



られます。その周囲には、小さな穴が丸く並んでいます。深さは50cmから70cmほどあり、これは柱が立てられていた柱穴です。住居の時代は、弥生時代の中期の前半（約2100年前頃）のものと考えられます。竪穴住居跡を縦に切っている細長い溝は、住居よりも後の時代のもので、直接の関係はありません。



左の写真も竪穴住居跡ですが、これは竪穴の形が四角形になっているのがわかるでしょうか。この住居跡も土地が削られてしまっているため、壁の残りはそれほどよくありません。中央にある底の白っぽい穴が炉です。炉の両側に2つの丸い穴が見られますが、これが柱穴です。深さは

約70cmあります。この竪穴住居も弥生時代の中期前半のもので

右は、今見た2つの竪穴住居のすぐ近くに掘られていた大きな穴の写真です。中からは真っ黒い土と一緒に混じって、弥生土器が捨てられた状態で出土しました。竪穴住居の時期と同じ時代の土器です。おそらく



ここに住んでいた人達が、家のすぐ近くに穴を掘って、使えなくなった土器を捨てたものだと思います。土器しか残っていませんでしたが、もともとは色々なゴミも一緒に捨てられていたことでしょう

右の写真は、土器の出土の様子を近づいて見たところ



です。甕の破片がまとまった場所で、重なるようにして出てきています。こういう遺構によって、弥生時代の人達がどのような土器を使っていたのかを知ることができます。



左は、この穴から出土した甕の破片をつなぎ合わせて、元の形に復元したものの一つです。口の大ききの割に、底が小さいのが特徴的です。